

特別支援教育だより

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園 教育支援部 発行
令和2年度 第3号（12月15日）

つい先日まで暖かい日が続いていましたが、12月に入ってから是一日の寒暖差があるものの朝晩はぐっと冷え込み、着実に冬が近づいてきました。今年度は新型コロナウイルスのことばかりでしたが、予想されていたように第3波が到来し、メディアからは毎日暗いニュースが続いています。学校教育を取り巻く状況が春先のようなになるのではという懸念もありましたが、学校では感染症予防対策が徹底されていることからクラスターが発生しにくいことや、休校のために学力が低下するような結果には至らなかったこと（兵庫県の調査）など、いくつかのことが明らかになっており、今後私たちが学校現場においてどのように取り組んでいけばよいかの示唆が得られたと言えるでしょう。一方では、感染拡大にともない差別事象をはじめとした様々な課題も増加していることから、二次的な被害を防ぐための人権教育を中心とした取り組みの充実がますます求められています。子どもたちの生活を守るために、私たちは一丸となって今できることにしっかりと取り組んでいきたいですね。

この10月に、中央教育審議会初等中等教育分科会より『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中間まとめ）』の報告が出されました。そこでは急激に変化する時代の中で、子どもたちに育むべき資質および能力に触れ、直面する課題の中で新学習指導要領を実施しながら新しい時代の学校教育を実現する必要性が述べられています。個別最適な学びと協働的な学びとを往還し、子どもの学びについて、幼児教育、義務教育、特別支援学校、高等学校教育それぞれにおいて詳しく示されているので是非一読していただけたらと思います。ここでは、その中から特別支援教育の部分について紹介させていただきたいと思います。

新時代の特別支援教育の在り方について

ニーズの増加や制度改正など、特別支援教育を巡る状況は刻々と変化しています。通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある多様な学びの場を整備、充実する必要性があること、子どもの学びという視点で、幼児期から高等学校まで連携を強化することが述べられています。以下、それぞれの段階に整理したものを転載します。

① 就学前における早期からの相談・支援の充実

- ・ 関係機関や外部専門家等との連携による人的体制の充実
- ・ 幼児教育の観点から特別支援教育を充実するために教師や特別支援教育支援員の資質向上に向けた研修機会の拡充

- ・ 5歳児健診を活用した早期支援や就学相談における情報提供の充実
- ② 小中学校における障がいのある子どもの学びの充実
- ・ 副次的な籍の導入による学級活動等の充実化や年間指導計画等に基づく教科学習の共同実施
 - ・ 通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の把握・支援、自校で専門性の高い通級による指導を受けるための環境整備
 - ・ 通級による指導等の多様で柔軟な学びの場の在り方の更なる検討
 - ・ 通級による指導の担当教師等の配置改善や指導体制の充実
- ③ 特別支援学校における教育環境の整備
- ・ ICTを活用した職業教育に関する指導計画・指導法の開発
 - ・ 特別支援学校の設置基準策定や教室不足の解消に向けた集中的な施設整備の取組推進
 - ・ 特別支援学校のセンター的機能の充実や設置者を超えた学校間連携を促進する体制の在り方の検討
 - ・ 知的障がい者である児童生徒に対する各教科等の在り方の検討や授業改善に向けた取組の充実
- ④ 高等学校における学びの場の充実
- ・ 通級による指導の充実や指導体制、指導方法など、高等学校における特別支援教育の充実
 - ・ 本人や保護者が障がいの可能性に気が付いていない場合の支援体制の構築
 - ・ 進学先の高等学校や卒業後の進路に対する情報の引き継ぎなど、関係機関等の連携促進

また、特別支援教育に関する専門性の向上については全ての教員に求められるものとしています。例えば、障がいの特性を適切に理解するということは、子どもたちが示す様々な姿に寄り添う上で必要不可欠な知識です。しかしながら、教職課程を学んだ段階では発達障害に関わる基礎的な理解が不十分な場合もあるので、主体的な専門性向上の取り組みの充実が期待されます。先日の日本LD学会のシンポジウムにおいて発達障害免許の創設の可能性についての話題がありました。多くの教員が直面する課題から、より深い知識技能の必要性を感じていることには違いないようです。

加えて、関係機関との連携強化による切れ目のない支援の実現に向けても言及がありました。近年発足した、行政分野を超えた「トライアングルプロジェクト」がありましたが、関係機関等と家庭との連携、保護者を含めた情報共有など、将来の社会参加を目指す上で大切なものです。学校教育が担う役割だけでなく、積極的につながっていくことも意識する必要があるでしょう。地域のセンター的機能を担う私たちも、みなさんと繋がっていきたいと考えています。

引用：「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中間まとめ）

（文責 清都）

つばさ学園の行事について

※今年度は様々な制約の中、公開体験授業等にご参加いただきありがとうございました。

令和3年度の行事予定については4月以降お知らせいたします。